

福祉は 人の可能性を 伸ばせるしごと

えのきぞの じゅんこ
榎木 純子さん

障害者支援施設勤務
生活支援員
南山城学園 / 25 歳
京都女子大学家政学部卒

\\ ワタシの成長のキッカケ //

精神障害の人は気分の浮き沈みがあり、ずっと話を聞いていると自分自身もしんどくなることがありました。先輩からもらったアドバイスは「全員で協力したらいい」。一人で抱え込まず、周りと共有して対応するようにしています。



一人じゃない
ことに気づく

\\ ワタシのプライベート //

中学校で吹奏楽部に入って以来、サクソスをずっと続けています。厳しい練習を重ねてきたので、メンタルはそこで鍛えられました(笑)。数人のサクソス奏者とアンサンブルを組み、コンテストに向けて練習中です。



休日は
サクソス奏者

●現場の楽しさにふれて就職を決意

就職活動では当初、介護食や福祉用具を扱う企業を志望していたが現場の仕事は念頭になかったのですが、それが本当に自分の進みたい道なのかと悩んでいました。そんなときに大学の現場実習で障害者支援施設に行きました。利用者さんが声をかけてくれたり、自分の顔を覚えてもらえたりと、利用者さんとの関わり合いが楽しくて「現場の仕事もありかな」と思いました。施設職員の方から「榎木さんは現場が合うね」と言われたことも、施設への就職の後押しにな

りましたね。

●利用者さんにできることはたくさんある

自主的に行動をすることが難しい自閉症の利用者さんがいました。その方は文字が読めず、言葉もほとんど理解できない方ですが、やりとりする中でモノや写真なら理解できることがわかりました。そこで、施設から外出して買い物をする楽しみを知ってもらうためにスケジュール表にリュックの写真を貼ると、それを見て、職員に促される前に自分でリュックを背負って自分から外出されるようになりました。まずその

人を知り、どうすればできることが増えるかを考え、実践する。支援次第で利用者さんの可能性を伸ばせるのがこの仕事の醍醐味です。また、自分の特技を生かせる場面があるのも魅力です。以前にアルバイトでPOPをつくった経験があり、施設が運営するカフェのPOPを書いています。これを見て地域の人に来店してもらい、障害者に対する理解を広げるのも利用者さんへの支援のひとつです。地域との絆を深め、福祉のイメージをプラスに変えていきたいです。

POPの経験を生かし、メニュー紹介



話が盛り上がると
モップがけが進み
ません(笑)